



小国町で治水や砂防に関する歴史の理解を深めました！ ～飯豊山系砂防事務所管内の視察を実施～

11月22日、新潟県新発田市に立地する敬和学園大学の学生が、地域防災担い手育成の一環として、荒川上流にある山形県小国町を対象に、『羽越水害』から50年以上経過した今、あらためて災害にまつわる史跡を巡り、先人の努力を学ぶことにより、この地域における治水や砂防に関する歴史を理解するための視察を行いました。

視察コースは災害の恐ろしさと、災害からの復興に触れていただけるよう選定しており、行く先々でパネルを活用した講師の説明に静かに耳を傾けていました。未来の地域防災の担い手として、その地域で発生した過去の災害や、その後の対応について学ぶことは、地域の方々への情報発信に深みを増す大事なことと考え、今後の防災に関する取り組みに生かしていただければと思います。



砂防施設の見学する学生



巨石の復興記念碑の前で



旧小国小学校での説明の様子